

「アジアを生きる」

父が読んだと言っていたアジアを生きるを読んでみた。
この手の本は読みなれてないので、さらっと流すところも多かったけど、
なんとなく普段耳にするアジアに対する見方について、
征韓論や脱亜論なども持ち出して解説されていたあたり得心した。
あとは、やっぱりどうしても二分法的な見方をしちゃうなあ / しているなあ、ということを知った。

グローバルな普遍的価値、どう身につけていけばいいんだろうなあ。
後半 横井小楠の話がつつらと出てくるあたり、著者の中の熊本郷土愛を(勝手に)感じるなど。

横井小楠 ... 尊敬する人だけど、よくある日本史の中では地味な扱いなので嬉しい。

ところで、関連項目調べてて、いまさらながら、熊本県立熊本中学校(旧制)に
第二済々黌ではない学校の名前として使われていたことを知った ...